

ふえーぬ風

発行 〒901-1115
 沖縄県南部農業改良普及センター
 TEL:(098)-889-3515
 FAX:(098)-835-6010



天敵利用技術の普及拡大に向けた取り組み（マンゴー）

天敵利用技術の概要

- ✓ **方法**：出蕾～着果期に**天敵（スワルスキーカブリダニ）**を放飼する。
- ✓ **効果**：①**害虫（チャノキイロアザミウマ）**による果実の食害を軽減することによる果実品質・所得の向上。
 ②農薬散布回数の低減。

防除を成功させるためには！

<導入農家の心得・準備>

- ✓ **天敵放飼前**に雑草を害虫をゼロにする（除草→殺虫の順）。
- ✓ 農薬使用時には、**天敵影響日数**を考慮する。
- ✓ 放飼（注文）の**タイミング**を見極める。
- ✓ 放飼後は、害虫と天敵の**推移を観察**する。

令和3年度シーズンの先導農家・指導者の育成

<指導方針>

- ✓ 南部地区で天敵利用技術普及拡大のため県・J A・農家による連携を強化する。
- ✓ 3年計画で毎年15名の先導農家（リーダー）を育成する。

<指導チーム>

- ✓ 県営農支援課農業革新支援専門員、農業研究センター研究員、普及指導員、J Aおきなわ営農指導員

<指導内容>

- ✓ 導入前の勉強会及び環境整備、出蕾状況（天敵放飼タイミング）、薬剤の散布履歴の確認、天敵導入後の定着状況及び害虫の発生状況の調査方法、その他相談等。



関係機関と先導農家による勉強会



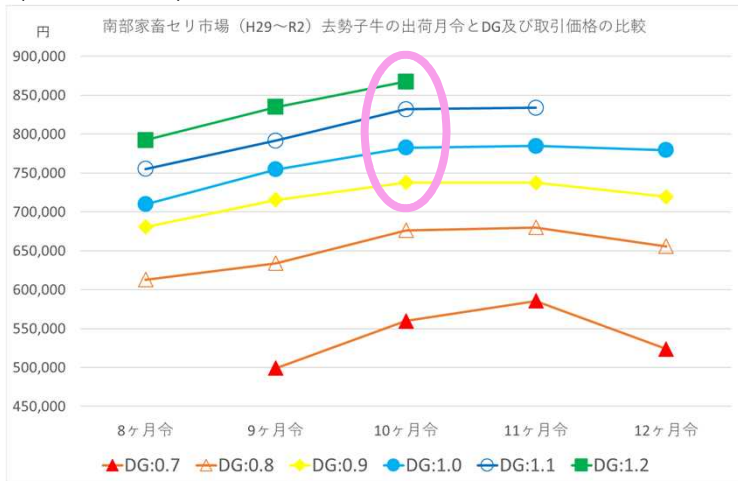
指導チームによる巡回指導

（園芸技術普及班 中村(翼) 山城）

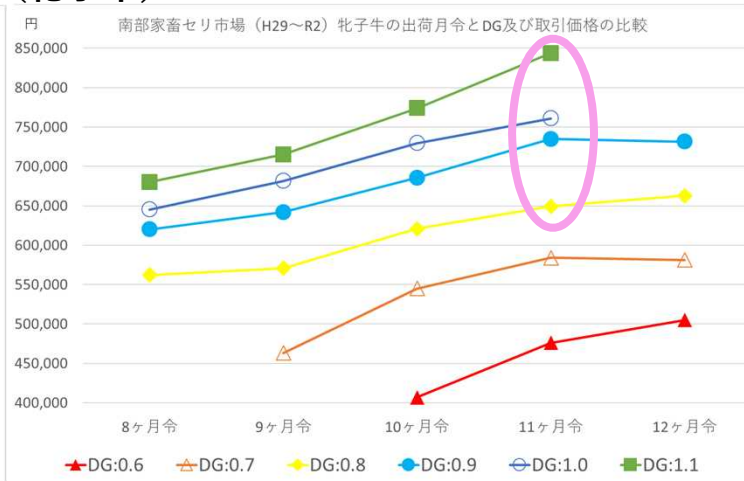
養牛情報 (肉用牛繁殖編)

南部家畜セリ市場における過去4年間の出荷月令とDG(体重/日令)及び取引価格を比較すると、去勢はDG0.9以上で10ヶ月令まで、牝はDG0.8以上で11ヶ月令までの出荷が経済的であることがわかります。出荷月令が延びる原因としては下痢等が考えられ、特に冬場に生まれた子牛は注意が必要です。

(去勢子牛)



(牝子牛)



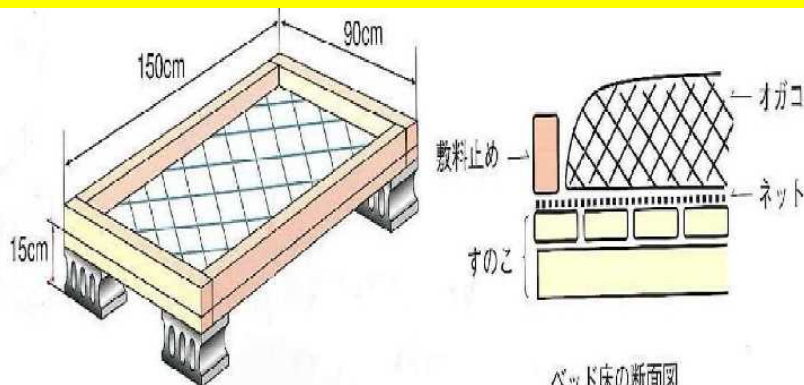
防寒対策に取り組もう!

子牛の適温域は13℃～25℃であり、体温が奪われ体力消耗すると、免疫力が低下して病気にかかりやすくなる。冬季(1-3月)は平均気温15.9℃であるが、平均風速5.7m/sであるため、体感温度は約2℃(気温-6×√m/s)となる。また冷たく濡れた地面は体温を奪われやすい。これらを改善する方法として「**防風ネット等の設置**」と「**子牛用高床ベッド**」がある。



子牛用高床ベッド

底上げした木枠にネット等を張り、オガコ等を敷くことで、床が乾燥し大腸菌が減少する。ただし排尿・排便がすることが多い飼槽・水槽付近に設置しないよう注意する。



防風ネット

子牛の四方を囲うのが理想だが、最低限、風上側に設置すること。1mm目合いで85%、2mm～4mmで30%の防風効果が得られる。

令和2年6月1日から HACCP（ハサップ）が義務化されました

経過措置
1年間

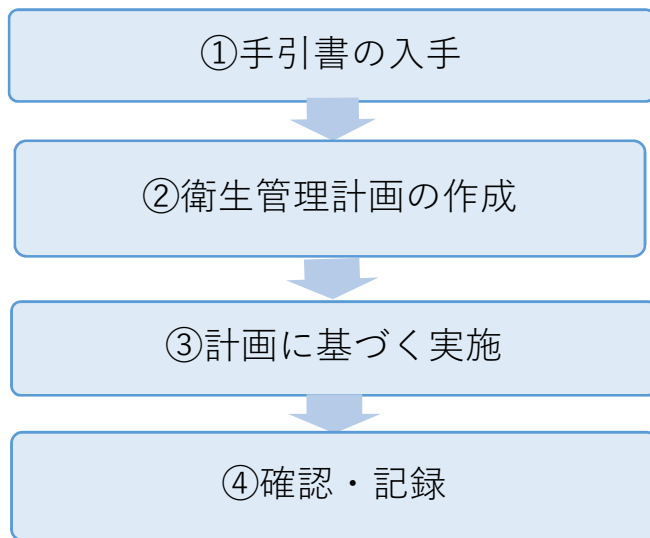
令和3年6月から 完全施行

HACCP（Hazard Analysis and Critical Control Point）とは

原材料の受入から最終製品までの各工程ごとに、食中毒菌汚染や異物混入等の危険要因を探し、その防止につながる重要な工程を継続的に監視・記録する工程管理システムのことです。

※原則全ての食品等事業者が対象となります。

HACCPの導入手順



計画や記録により、
衛生管理を「見える化」
することが大切です。
記録は保管しましょう！



自信を持って商品を製造しましょう

手引書については下記サイトを参照してください。

厚生労働省ホームページ 「食品等事業者団体が作成した業種別手引書」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000179028_00001.html

■衛生管理の基本 5Sからはじめてみましょう！

- ①整理（Seiri）
不必要なものを取り除く・入れない。
- ②整頓（Seiton）
決められたものを、決められた場所に戻す。
- ③清潔（Seiketsu）
従事者自身の清潔と衛生環境を維持する。
- ④清掃（Seisou）
常に清掃を心がける。
- ⑤しつけ（習慣）（Shitsuke）
正しい衛生管理を習慣づける。

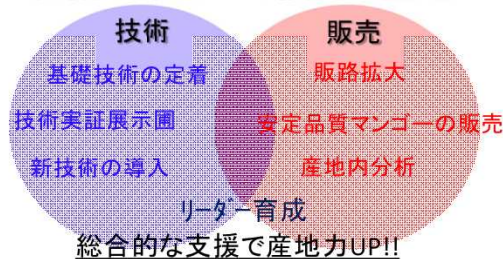


5Sとは、この頭文字をとったもので、「清潔」を保つために、「整理」、「整頓」、「清掃」、を行い、この3つを確実に実施するために「習慣」化させましょう。

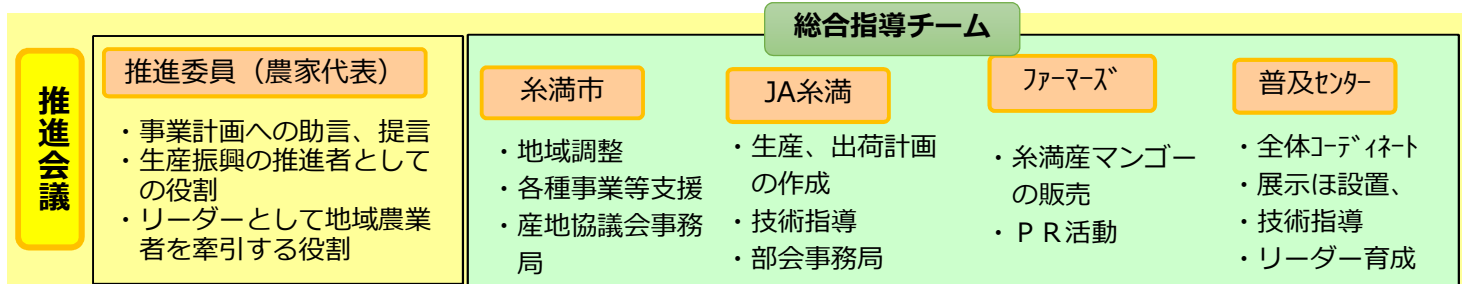
マンゴーの生産振興による地域農業の活性化を目指して ～ 地域農業振興総合指導事業（糸満市）～

南部農業改良普及センターでは、令和元年度より糸満市において、マンゴーの生産振興に取り組む「地域農業振興総合指導事業」を実施しております。当事業では、活動方針を「基本技術の定着」と「販売戦略」とし推進委員（生産農家代表）と関係機関が連携し、マンゴーの生産振興による地域農業の活性化に取り組んでいます。

目指せ県内一の技術力産地



○推進体制(事務局：普及センター)



○マンゴー栽培技術の向上

JAおきなわ糸満支店と共催で「マンゴー勉強会」を開催。「果実品質の向上」や「天敵の導入」などテーマを絞って実施。対象は糸満支店マンゴー専門部会員の他、ファーマーズマーケット出荷者に広く呼びかけています。



マンゴー勉強会

○技術実証展示ほの設置

現地の課題やニーズに応じた技術を実証するため、令和2年度は「マンゴーの果実品質に及ぼすハウス環境条件の検討」および「肥料資材等施用によるマンゴーの収穫後の早期樹勢回復」について展示ほを設置し、調査結果をとりまとめ、現地検討会など実施しています。



展示ほでの液肥散布

○栽培管理チェックシートの作成

マンゴーの適期管理と年間の作業の見直しを進めるため、栽培管理チェックシートを作成しました。作成したチェックシートは推進委員の協力を得てモニターを実施し仕上げました。今後希望者に配布して活用を進める予定です。

○マンゴー農家だよりの発行

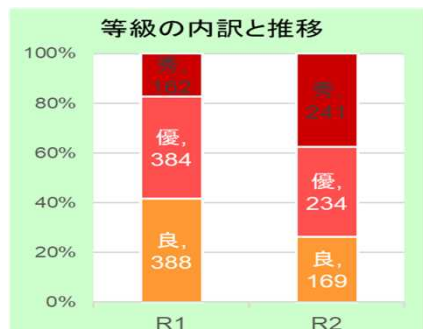
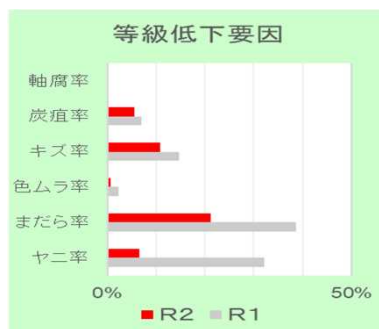
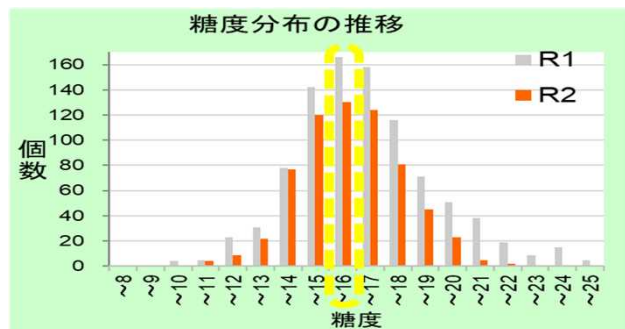
事業の取組や産地の技術向上、活性化に繋がる情報を糸満市のマンゴー生産農家へ提供するため、関係機関で執筆分担し「農家だより」を発行しています。

○果実品質現状調査

令和元年度よりファーマーズマーケット糸満にて化粧箱入りマンゴーの糖度、等級、障害果の状況、重量、価格について調査を実施しています。糖度については非破壊モバイル糖度計にて測定。調査結果は、販売戦略に活用していくための基礎データとする他、農家個別には結果をフィードバックしています。令和2年度は前年度と比較すると全体的に障害果は減少し、平均等級も高くなっています。



果実品質調査の実施状況



(普及企画班 崎間)

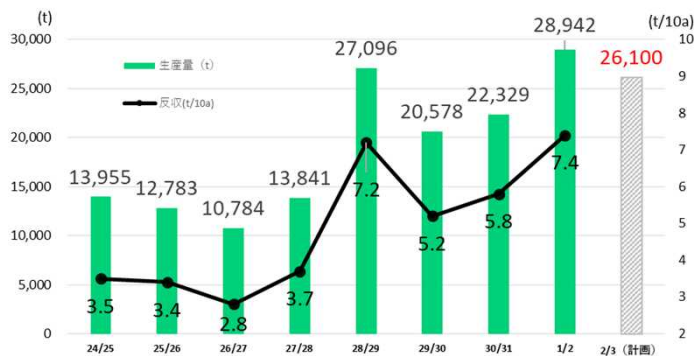
離島情報 (北大東村)

1. サトウキビ生産状況

北大東村の令和2/3年期さとうきび予測生産量は台風10・14号の被害があったものの26,100 tを想定しています。平成28/29年期から20,000t越えを達成しており、豊作年となっています。

最大瞬間風速51.6メートルの大型台風10号が直撃したことで、糖度の低下や種苗不足の心配もされていましたが、台風後の管理や支援事業の活用により、例年通りの生育状況となっています。

新植春植えや株出し栽培では特に点滴チューブを活用したかん水が行われています。5-8月の降水量が少ない時期に効果的なかん水ができ、サトウキビの成長に欠かせない技術となっています。



台風10号被害様子



点滴チューブ活用ほ場

2. カボチャ生育状況

冬期の日照不足の影響により生育が緩慢となっていました。しかし、細かな肥培管理やネット、サトウキビを活用した防風垣の設置を行い、高単収を目指しています。

コロナ感染対策を徹底し、栽培講習会や現地検討会を実施しています。部会員同士での重要な意見交換の場となっています。

今年の取り組み

雑草が多く発生するほ場で白黒マルチを設置しました。現在、生育に問題がなく、除草作業の省力化も図られています。今後より検討していく必要があります。



栽培講習会



白黒マルチ設置ほ場

3. バレイショ生育状況

10月下旬から11月上旬にかけて今年も定植が行われました。特徴としては、1畝ごとに点滴チューブを設置し、日々のかん水量を調整した栽培が行われています。

病害対策として、種いも消毒や風による被害を和らげるため防風ネットが活用されています。



防風垣・かん水様子

特産品紹介



じゃがいも焼酎「ぼてちゅう」があります。フルーティーな香りと芳醇な味わいが人気です。是非、じゃがいもの香りと味を楽しんでください。



焼酎「ぼてちゅう」

担い手の育成者

令和2年度 新規認定農業士の紹介

令和2年8月19日の認定会議にて県内の農業者13名が沖縄県の農業士として県知事から認定され、南部地区からは島袋幸憲氏（糸満市）、久保田隆之氏（糸満市）が指導農業士に認定されました。地域農業のリーダーとして、また、農業青年や新規就農者等の指導者としての活躍が期待されます。

指導農業士
第354号

しまぶくろ ゆきのり

【島袋 幸憲】

営農地：糸満市

小ギク生産で秀品率の高い栽培と機械化による作業効率化で適期作業を行っている。

JAおきなわ南部地区花卉協議会の会長などを務め、花卉生産者間の意識統一や選花選別強化で糸満市産小ギクの市場評価向上に貢献している。

視察受け入れ等で後進指導も行っている。

■栽培品目：花き(小ギク)

指導農業士
第355号

くぼた たかゆき

【久保田隆之】

営農地：糸満市

平成17年に農業後継者として就農し、同時に米須野菜生産組合で組合長を務めた。又、JAおきなわ糸満支店野菜生産部会の専門委員長などの役員を務めている。

年間を通してモロヘイヤの県外出荷を行い主産地としての市場評価を得ている。

若手の模範的存在として後進育成が期待される

■栽培品目：野菜(モロヘイヤ・きゅうり等)

(普及企画班 安仁屋)

新規就農し、天敵の利用で安全・安心なピーマン産地に貢献！！

JAおきなわ具志頭支店野菜部会ピーマン専門部は、全ての部会員がエコファーマの認定を受け、適正施肥、太陽熱土壌消毒の実施や天敵利用による減農薬等の安全・安心なピーマン生産に励んでおり、沖縄県産ピーマンの7割(1,200t)を生産する一大産地です。

産地の主力品種の「ちぐさ」は、肉厚で柔らかな果肉と甘みが特徴で、とても美味しいピーマンです。部会では、勉強会・現地検討会を毎月実施しており、生産安定と若い担い手も順調に育っています。

今回紹介する大城光貴さんは、平成30年9月～令和元年9月まで指導農業士のもとで研修後、令和元年10月に就農し、現在、ピーマンを17aを栽培しています。そして、新たに20aのハウスを導入・規模拡大を進めています。勉強熱心で、リーダーシップもあり、地域の担い手としても期待されています。

就農2年目の今期は、普及センターの展示ほ、天敵利用と病害対策も含めた総合防除の展示ほの実証を行っています。南部地区ピーマン天敵利用現地検討会等での現地検討を大城さんのほ場で実施し、土着天敵の温存植物と採取方法の説明等も行い、JA具志頭支店ピーマン専門部だけでなく、南部地区ピーマン生産者への天敵普及にも貢献しています。



大城光貴 さん



大城さんほ場にて展示ほ現地検討会

(園芸技術普及班 屋宜)